

## 会 議 録

会議名称	令和7年度第3回地域生活支援専門部会
日 時	令和8年（2026年）3月17日（火）13:30～14:30
会 場	越谷市役所第三庁舎5階 会議室10
出席者	<p>【出席委員】 齊間委員、中山委員、石塚委員、柳沼委員、村上委員、石黒委員、上薄委員</p> <p>【事務局】 （障害福祉課）齊藤調整幹、藤本主幹、河合主幹、対馬主幹、石井主事 （子ども福祉課）岩片主任</p>
配付資料等	<p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次 第</li> <li>・資料1：基幹相談支援センター稼働状況の検証の根拠について</li> <li>・資料2：越谷市障がい者等相談支援事業 事業実施状況確認表</li> <li>・資料3：検証実施状況確認の実施方法について（委員用）</li> <li>・地域生活支援専門部会 部会員名簿</li> <li>・事務局職員等一覧</li> </ul>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事 (1)基幹・拠点の評価の仕組みの整備について (2)その他</li> <li>3 閉会</li> </ol>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基幹・拠点の評価の仕組みの整備について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局から配布資料について以下のとおり説明を行う。</li> <li>・評価における各スケジュールを変更している。</li> <li>・人員配置の状況の記載方法を変更している。</li> <li>・検証結果の公表について、相談支援事業所への情報提供することを追記している。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> <p>【質問・意見等】</p> <p>委 員：評価シート内の一般相談支援の標記が法定サービスのものと重複し、誤解を招く可能性が考えられるため、標記方法の変更をしたほうが良いと考える。</p> <p>委 員：評価シートの①職員配置の状況の項目の常勤換算について、1つにまとめてしまってよいのではないかと考える。</p>

(2) 次年度の活動内容について

○事務局から以下のとおり説明を行う。

- ・評価シートに基づく基幹相談支援センターの実施状況の検討を行うため、5月、6月に専門部会を開催予定。
- ・次年度の専門部会は実施状況の検証も含め4～5回の開催を予定。
- ・地域生活支援拠点等の事業者向け説明会を別途年2回開催予定。

【質問・意見等】

委員：次年度の活動について、基幹の実施状況の検証、地域生活支援拠点等の評価等、評価シートの見直しなどを実施することを踏まえると回数はもう少し多いほうがよいと考える。

委員：来年度の活動内容について協議とのことだが、地域生活支援拠点等の仕組みや運用方法を委員や現場の職員が把握していないところで、次年度の取組み内容の協議は難しいのでは。

委員：運用方法については難しい部分である。地域生活支援拠点等の運用で多いのが緊急時の対応となるが、必ずしも基幹相談支援センターが関わるものではなく、事業所間で完結し、地域生活支援拠点等の活用とならないケースもあり、事例等がはっきりと共有ができず、具体的な運用方法が不透明な中で協議を行うこととなる。

委員：不透明な部分があるのであれば、その点を透明化していく必要があるのではないかと。運用方法を基幹相談支援センターだけが把握していても、現場の相談員が知らなければ、実際に運用することは難しいのではないかと。

委員：そのために、本部会で地域生活支援拠点等の運用方法について協議したうえで、基幹相談支援センターが中心となり相談支援専門部会で情報共有していくことが必要となるのではないかと。

委員：地域生活支援拠点等の仕組みは越谷市では令和5年10月に運用開始し、当時はまだ十分に仕組みを理解できていない中で探りながら説明会やガイドラインの作成を行ってきた。周知といった意味ではこれからが重要となってくると思われるため、まだ周知が進んでいない現時点で、どういったことが部会として取り組めるかを考える必要があるのではないかと。

委員：説明会を開催する場合、どのように運営するのか。

事務局：運営は市が主導となる。行政として仕組みや制度の説明を行うこととなり、委員の皆さまには、実際現場として想定される活用事例等をお話しいただきたいと考えている。

委員：具体例があると、より事業所は理解しやすくなるのではないかと。

事務局：市が主導となって活用したケースはあるが、基幹が主導となったケースはないと思われるため、事例として紹介できるものは現状ないものと思われる。

委員：他自治体の事例でも紹介してもらえるとありがたい。

委員：地域生活支援拠点等に登録した場合にどのような役割が求められるのかがよくわからないため、登録できていない状況となっている。そのあたりを説明会で説明してもらいたい。

委員：基幹相談支援センターの検証を行う際に、仕様書上で求められる業務と地域で実際に求められる業務には差異があるものと思われる。検証結果がすべてになってしまうと、仕様書に基づいた業務になってしまい、実際に地域で求められている支援が行われない心配があ

る。検証の際に仕様書に基づいた評価ばかりにならないように気を付けるのはもちろん、もう少し柔軟に対応できる仕様書になっても良いのではと考える。地域生活支援拠点等については、登録事業所の中には仕組みをよく理解せずに登録している事業所や加算目当てで登録している事業所もあると思われ、実際の対応事例や困難ケースを検証する場をつくり、登録事業所にフィードバックし、登録事業所に対し周知することも必要であると思う。

委員：相談件数が増加傾向にある中で、個別事案への対応について、これまでは相談員の経験等に基づく判断によるころがあったが、対応マニュアル的なものを作成することにより相談員の負担軽減を図ることも考える必要もあるのではないか。

委員：仕様書と地域ニーズとの差の件については、基幹相談支援センターから評価シートに記載をしてほしいと思う。地域生活支援拠点等の件については、登録事業所の特徴等をまとめる取り組みなどを実施したほうが良いと考える。

委員：地域生活支援拠点等における人材育成の観点からすると、入所施設等に直接伺って現場での支援を直接学ぶといったこともあると良いのではないか。

委員：次年度の活動としては、基幹相談支援センターの実施状況の検証と、評価シートの見直し作業のほか、地域生活支援拠点等については、仕組みの周知等が課題として見られるため、次年度の活動内容について検討を行うこととする。

### 3 閉会